



アシダカグモ アシダカグモ科 待機型
 屋内性。徘徊種では日本第2位の大きさ。夏に卵嚢を持ち運び。
アサヒエビグモ エビグモ科 徘徊型
 親クモは葉につくった卵嚢に被さって守る。樹皮の下で幼体越冬。
コハナグモ カニグモ科 待機型
 腹部2~3対の斑点と頭胸部の長い毛が特徴。幼体越冬。
ハナグモ カニグモ科 待機型
 模様の変異は多い。草の花上で獲物を待つ。葉裏に卵嚢をつくる。



ワカバグモ カニグモ科 待機型
 昼は草間などに潜み、夕方、葉上で獲物を待つ。全身が緑色。
ガザミグモ カニグモ科 待機型
 日中、花上などで待伏せ。名は「風見」がカニグモ科からガザミに。
フノジグモ カニグモ科 待機型
 花に潜み、飛翔性の昆虫を捕る。♀の腹部に「不」の字模様。
アズチグモ カニグモ科 待機型
 眼域の斑紋が褐色の三角形。草木の花上で訪花性昆虫を狙う。



ネコハエトリ ハエトリグモ科 徘徊型 袋状住居(葉上)
 10mmほどの大型種。オスを戦わせるクモ相撲を行う地域がある。
マミジロハエトリ ハエトリグモ科 徘徊型 袋状住居(葉上)
 オスは額の前縁の白毛が目立ち眉毛のように見える。
アダンソンハエトリ ハエトリグモ科 徘徊型 袋状住居(葉上)
 屋内でハエやカなどを捕る。オスは頭胸部の白斑が特徴。
ヨダンハエトリ ハエトリグモ科 徘徊型 筒状住居(葉上)
 初夏、草の葉上や森の地表で見られる。四段の橙色縞模様が特徴。



シラヒゲハエトリ ハエトリグモ科 徘徊型 袋状住居(葉上)
 日当たりの良い外壁などで見られる。袋状住居を中心に縄張りをはる。
デーニッツハエトリ ハエトリグモ科 徘徊型 袋状住居(葉上)
 よく見られる。成虫越冬。メス腹部背面は茶色いギザギザが明瞭。
ミスジハエトリ ハエトリグモ科 徘徊型
 屋内性だがアダンソンハエトリの進出により草地でも見られる。
アオビハエトリ 徘徊型ハエトリグモ科 袋状住居(樹皮下、葉裏)
 アリを食べる。アリの幼虫も襲う。頭胸部側面の青い線が特徴。



シラホシコゲチャハエトリ 徘徊型ハエトリグモ科 袋状住居(石下)
 体長2mm。地表面などで1年中見られる。オスは黒字に白斑4つ。
アリグモ 徘徊型ハエトリグモ科 天幕状袋状住居(葉上、樹皮下)
 頭胸部にくびれがあり、アリに擬態。動きもアリに似せている。

本号掲載のクモ写真は、画像左下に★印のない写真はすべて、森田剛則氏により静岡県立森林公園内で撮影され、本号作成にあたりご提供いただいたものです。併せて園内のクモ生息に関する情報提供に多大なるご協力を賜りました。ここに深く感謝の意を表します。

★印の画像は、静岡県立森林公園提供
 参考文献：
 「日本のクモ」新海栄一著（文一総合出版）、「クモハンドブック」馬場有希、谷川明男著（文一総合出版）、「クモの巣ハンドブック」馬場友希、鈴木佑弥、谷川明男著（文一総合出版）、「ハエトリグモハンドブック」須黒達巳著（文一総合出版）、「クモの生物学」宮下直直編（東京大学出版会）、「クモ学」小野展嗣著（東海大学出版会）、「クモの巣と網の不思議」池田博明編（夢工房）、「まぶせるクモ 網上の10秒間の攻防」中田兼介著（共立出版）、「クモの奇妙な世界」馬場友希著（家の光協会）、「クモのイト」中田兼介著（ミシマ社）、「クモの世界」浅間茂著（中公新書）、「生物の科学 遺伝 vol.74 No.6」（株式会社エヌ・ティー・エス）

静岡県立森林公園のクモ

クモって実に種類豊富なんです。日本では1700種ほど記録されているそうで、森林公園でも160種（参考記録）ほど確認されています。どのクモもすべて体から糸を出します。移動時はしおり糸を引き、卵は大切に糸でぐるみ、獲物をとる罠の網を張り、身を隠す隠れ家や住処をつくるなど、糸の種類を変え器用に使いこなします。ここでは森林公園で見られるクモの一部をご紹介します！



カネコトタテグモ カネコトタテグモ科 待機型 横穴住居
 観音開きの扉のついた巣穴。獲物を通ると扉を開けて捕らえる。
ジグモ ジグモ科 待機型 筒状住居
 地上部の筒状部に獲物が触れると袋ごしに噛みつき袋へ引き込む。
ワスレナグモ ワスレナグモ科 待機型 横穴住居
 地面に垂直な巣穴。入口に扉は無い。側を通る獲物を顎で捕らえる。
イエウレイグモ ユウレイグモ科 造網型 不規則網
 6~8月に産む卵は糸で包み、口にくわえて守る。屋内で見られる。



クロガケジグモ ガケジグモ科 造網型 水平網
 篩板^{※1}から出す梳糸^{※2}で網を張る。フェンスなど人工物で見られる。
オウギグモ ウズグモ科 造網型 扇網
 獲物が来ると網を放しゆるんだ網で獲物を捕らえる。眼は6つ。
マネキグモ ウズグモ科 造網型 条網
 枯葉に擬態。獲物を頭に乗せる習性がある。眼は4つ。
カタハリウスグモ ウズグモ科 造網型 水平円網
 直線状のかくれ帯を付ける。卵嚢は日陰の崖地に吊るす。梳糸円網。



クサグモ タナグモ科 造網型 棚網
 生垣などで見られる。管状住処に潜み、シートに落ちた獲物を捕る。
コクサグモ タナグモ科 造網型 棚網
 クサグモより小さく淡い体色。網は枝先に張ることが多い。
キクツキコモリグモ コモリグモ科 徘徊型
 出糸突起に卵嚢を付けて運び、孵化した幼体は腹部背中に乗せる。
ササグモ ササグモ科 徘徊型
 脚の長い棘が特徴。葉の上にいる。付着型の卵嚢は葉裏に付ける。



スジアカハシリグモ キシダグモ科 徘徊型
 草や低木の葉上に止まって獲物を待つ。体の縦糸は赤味が強い。
イオウイロハシリグモ キシダグモ科 徘徊型
 夏が産卵期。キシダグモ科のクモは丸い卵のうをくわえて守る。
アズマキシダグモ キシダグモ科 徘徊型
 求愛時オスはメスに糸で包んだ獲物を贈る。移動して獲物を捕る。
ヒラタグモ チリグモ科 造網型 受信糸網
 建物の壁などで見られる。円盤状の住処から放射状に受信糸を引く。

^{※1} 篩板 (しばん) : 糸を出す器官のひとつ。ウズグモ科のカタハリウスグモ、マネキグモ、オウギグモなどが持つ器官。
^{※2} 梳糸 (そし) : 篩板から出る微細な糸の束を指す。粘球による粘性ではなく、ファンデルワールス力という電気的な力で獲物を絡めとる。

獲物を捕る罟を「網」、住処を「巣」と解釈すると、クモは網を張るタイプ、網を張らないタイプ、網と巣と兼ね備えたものをつくるタイプに大別できる。網を張らないクモは自分で狩りする。網のスタイルは種により異なり、円網(ウズグモ科、コガネグモ科など)、立体網(サラグモ科、タナグモ科、ヒメグモ科など)、住処から受信糸を延ばす網(ヒラタグモ、チリグモなど)、1本の糸で構成された糸網(マネキグモなど)など多様。フェロモンで誘ったガを、脚先から吊るした粘球を投げ縄のように回転させて投げつけ

捕獲するもの(マメイタイセキグモなど)も。巣は、地中を掘って作るもの(カネコタテグモ科、ジグモ科など)、葉や地面のくぼみを利用した袋状のもの(アリグモ、ハエトリグモ科)、葉を折ったり緩ったりして袋状の巣をつくるもの(コハナグモなど)などがある。狩りも待伏せるもの(カニグモ科、コモリグモ科など)、追いかけるもの(ハエトリグモ科など)、ほかのクモの巣に入り襲うもの(センショウグモ、ヤリグモなど)など。クモは地中性のものから造網性、そして徘徊性へと進化したと考えられている。



センショウグモ センショウグモ科 襲撃型
他のクモの網に侵入し、その網の主のクモを食べる。



オオヒメグモ ヒメグモ科 造網型 不規則網
不規則網から地面に粘球のついた糸をおろし徘徊性の獲物を捕る。



カガヤヒメグモ ヒメグモ科 造網型 不規則網
幹の分れ目に不規則網を張りその中央に吊した枯葉を住処とする。



ニホンヒメグモ ヒメグモ科 造網型 不規則網
不規則網とシートからなる立体網の中央に枯葉を吊しその中に潜む。



オナガグモ ヒメグモ科 造網型 無粘性糸網
クモ食。糸網を伝ってくるクモを第四脚で粘球糸を投げつけ捕える。



シロカネイソウロウグモ ヒメグモ科 居候型
ジョロウグモやコガネグモの網に寄生し獲物を盗み食する。



フタオイスウロウグモ ヒメグモ科 居候型・襲撃型
クサグモ類、サラグモ類の網に居候し、食べ残しや網の主を捕る。



ヤリグモ ヒメグモ科 襲撃型
クサグモ、ジョロウグモ、ゴミグモなどを捕る。卵嚢が槍の形に似る。



オダカグモ ヒメグモ科 造網型 不規則網
南方系のクモだが北上している。全粘性の垂糸網を張る。



ムネグロサラグモ サラグモ科 造網型 血網
体長4mm。林縁の枝の間などにハムモック網を張る。



アシナガサラグモ サラグモ科 造網型 血網
不規則網にぶつかった獲物がドーム型の網上に落ちたところを捕る。



ユノハマサラグモ サラグモ科 造網型 血網
樹間、草間に浅いドーム型の網を張る。オスの出現は春先のみ。



トリノフンダマシ ナゲナワグモ科 造網型 円網(同心円状)
上記4種とも生息地は草地や林縁。トリノフンダマシはいずれも昼は葉上などでじっとし、夕方から網を張る夜行性。横糸粘性の強い粗い網でガを専門に捕る。ガが網にかかると横糸と縦糸の接続が切れてぶら下がるしくみ。卵嚢は種ごと、形に違いはあるが茶色い袋状のものが垂れ下がる。



オオトリノフンダマシ ナゲナワグモ科 造網型 円網(同心円状)



シロオビトリノフンダマシ ナゲナワグモ科 造網型 円網(同心円状)



アカイトリノフンダマシ ナゲナワグモ科 造網型 円網(同心円状)



オオシロカネグモ アシナガグモ科 造網型 水平円網
水辺に網を張る。こしき部に穴が空いている。腹部背面に3本条。



チュウガタシロカネグモ アシナガグモ科 造網型 水平円網
草間に網を張る。腹部前端の両肩が盛り上がり黒斑がある。



キラシロカネグモ アシナガグモ科 造網型 水平円網
腹部の黄色は刺激で茶色く変化する。網の端の葉裏に潜む。



メガネドヨウグモ アシナガグモ科 造網型 水平円網
水辺に斜めに網を張る。頭胸部に眼鏡模様、土用(夏)に出現する。



アシナガグモ アシナガグモ科 造網型 水平円網
細長い腹部。網の中央に歩脚を伸ばして静止。昼は枝などに止まる。



ジョロウグモ ジョロウグモ科 造網型 垂直円網
三層構造の蹄形の網を張る。前後の網はバリアー網。卵嚢で越冬。



ハツリグモ コガネグモ科 造網型 垂直円網(キレ網)
赤茶色で腹部が四角い。地面に近い暗い所に枯葉を吊った網を張る。



ヤマオニグモ コガネグモ科 造網型 垂直円網
オニグモより腹部が細長い。腹部背面は葉斑。大型の網を張る。



ハラビロドリオニグモ コガネグモ科 造網型 垂直円網
美しい緑色の腹部は光沢がある。林縁2-3m高さに網を張る。



アオオニグモ コガネグモ科 造網型 垂直円網(キレ網)
樹間・草間に一部欠けた網を張る。クモは網の端の丸めた葉に潜む。



ヤマシロオニグモ コガネグモ科 造網型 垂直円網
林縁部。夕方に網を張る。幼体は昼から網を張る。模様は変異ある。



カラフトオニグモ コガネグモ科 造網型 垂直円網
樹間。色彩変異が多い。腹部前縁が直線的。白帯のある網もある。



コガネグモ コガネグモ科 造網型 垂直円網
草原の高茎植物間に網を張る。x字型の隠れ帯をつける。



チュウガタコガネグモ コガネグモ科 造網型 垂直円網
黄色と黒色の縞模様は途中で切れる。x字型の隠れ帯をつける。



コガタコガネグモ コガネグモ科 造網型 垂直円網
薄暗い林縁の枝間に網を張る。腹部の縞模様に赤色が入る。



ナガコガネグモ コガネグモ科 造網型 垂直円網
開けた草地。腹部が細長く細かい縞模様。ギザギザの隠れ帯をつける。



ヨツデゴミグモ コガネグモ科 造網型 垂直円網
薄暗い林内。腹部後端に4つ突起。卵嚢もゴミリボンに紛れさせる。



ゴミグモ コガネグモ科 造網型 垂直円網
枯葉や脱皮殻などを網の中央に並べクモはそのなかに潜む。



ギンメッキゴミグモ コガネグモ科 造網型 垂直円網
よく見られる。頭を上にし、網の中央に止まる。腹部は銀~黒色。



ギンナガゴミグモ コガネグモ科 造網型 垂直円網
頭を上にして止まる。網に直線や渦巻き型の白帯をつける。



サツマノミダマシ コガネグモ科 造網型 垂直円網
夜に林縁などに網を張る。腹部の緑色が美しい。腹部腹面も緑色。



ワキグロサツマノミダマシ コガネグモ科 造網型 垂直円網
腹部前端から腹面が褐色。夜に網を張り、昼は葉裏などに潜む。



カラスゴミグモ コガネグモ科 造網型 垂直円網
草間に張った網の中央に横向きに止まることが多い。



ゲホウグモ コガネグモ科 造網型 垂直円網
昼は木のコブに擬態。夜にとても目の細かい網を張る。主にガを捕る。